

# 平成17年3月期 個別中間財務諸表の概要

平成16年10月29日

 上場会社名
 トッパン・フォームズ株式会社
 上場取引所東

 コード番号
 7862
 本社所在都道府県 東京都

(URL http://www.toppan-f.co.jp)

代 表 者 役職名 代表取締役社長 氏 名 秋 山 正 法

問合せ先責任者 役職名 取締役経理本部長 氏 名 新 田 健 二 TEL (03)6253-5720

中間決算取締役会開催日 平成16年10月29日 中間配当制度の有無 有

中間配当支払開始日 平成16年12月10日 単元株制度採用の有無 有(1単元100株)

### 1.16年9月中間期の業績(平成16年4月1日~平成16年9月30日)

#### (1)経営成績 (百万円未満は切り捨てて表示しております。)

/				( - 731	3				• ,
	売 上 高		評問期 〕 減率 〕	営業利益	(対 (増	前年中間期 )	経 常 利 益	(対 (増	前年中間期 )
	百万円		%	百万円		%	百万円	3	%
16年9月中間期	91,381	(	2.4)	5,604	(	14.9)	7,312	(	12.0)
15年9月中間期	89,241	(	0.0)	6,585	(	3.0)	8,310	(	8.3)
16年3月期	182,903			14,111			16,200		

	中間(当期)純利益	(対前年中間期) 増減率)	1 株 当 中間(当期	た り ) 純 利 益
	百万円	%	円	銭
16年9月中間期	4,605	( 4.7)	40	34
15年9月中間期	4,830	( 15.0)	42	25
16年3月期	9,453		82	07

平成16年9月中間期 114,151,487株 数 平成15年9月中間期 114,315,003株

(注)1. 期中平均株式数 平成15年9月中間期 114,315,003株平成16年3月期 114,273,912株

2. 会計処理の方法の変更

#### (2)配当状況

-/	_					_				
	1 由	株	当	た	IJ	1	株	当	た	ں ا
	Ŧ	間	配	当	金	平	間	配	当	金
			円	銭				円	銭	
16年9月中間期		1	1	50						
15年9月中間期		1	1	50						
16年3月期							2	3	00	

#### (3)財政状態

	総	資	産	株	主	資	本	株主資	本比率	1 株当たり	朱主資本
		百	万円			百	万円		%		円 銭
16年9月中間期		151,859	)		10	8,547			71.5	951	50
15年9月中間期		145,584			10	1,756			69.9	890	78
16年3月期		149,995	,		10	5,788			70.5	925	5 42

 平成16年9月中間期
 114,079,820株
 平成16年9月中間期
 920,180株

 (注)
 期末発行済株式数
 平成15年9月中間期
 767,180株

 平成16年3月期
 114,232,820株
 平成15年3月期
 767,180株

 平成15年3月期
 767,180株

### 2.17年3月期の業績予想(平成16年4月1日~平成17年3月31日)

		売	Ŀ	高	経	常	利	益	当	期	純禾	」 益	1株 期	当たり 末	年間配	当金
			百万	i円			百万	門			百	万円	P.	銭	F	9 銭
通	期	18	39,500			16	,200				9,600	)	11	50	23	00

#### (参考) 1株当たり予想当期純利益(通期)83円49銭

業績予想につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、今後様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。

# 6.中間財務諸表等

# (1)中間財務諸表

中間貸借対照表

			引会計期間 5年 9 月30			聞会計期間 6年 9 月30		要約	事業年度の 貸借対照 6年3月31	表
区分	注記 番号	金額(百	百万円)	構成比 (%)	金額(百	百万円)	構成比 (%)	金額(百	百万円)	構成比 (%)
(資産の部) 流動資産 1 現金及び預金 2 受取手形 3 売掛金 4 有価証券 5 たな卸資産 6 繰延税金資産 7 その他		15,254 6,777 27,337 3,020 11,098 1,220 3,536			21,710 5,495 29,617 3,440 10,815 1,196 2,980			19,922 5,394 29,811 2,819 10,541 963 2,668		
8 貸倒引当金 流動資産合計 固定資産 1 有形固定資産		105	68,139	46.8	99	75,156	49.5	99	72,022	48.0
(1) 建物 (2) 機械及び装置 (3) 土地 (4) 建設仮勘定 (5) その他 有形固定資産合計 2 無形固定資産 3 投資その他の資産 (1) 投資有価証券 (2) 繰延税金資産 (3) その他 (4) 貸倒引当金 投資その他の資産合計	1 1	23,480 12,171 17,518 502 1,891 55,565 1,396 10,054 1,050 9,515 138 20,483		38.2 0.9	22,720 12,078 18,103 880 1,816 55,598 1,326 10,555 70 9,213 62 19,777		36.6 0.9	23,233 12,451 18,104 686 1,919 56,395 1,340 10,958 9,344 64 20,238		37.6 0.9
固定資産合計 資産合計			77,445 145,584			76,703 151,859	50.5 100.0		77,973 149,995	52.0 100.0

			引会計期間 5年 9 月30	-		引会計期間 6年 9 月30		要約	事業年度の 貸借対照 6年3月31	表
区分	注記 番号	金額(百	百万円)	構成比 (%)	金額(百	百万円)	構成比 (%)	金額(百	百万円)	構成比 (%)
(負債の部) 漁負債 1 支援 2 買掛金 3 未払費 4 未払費引 5 賞そ動定負債 6 流面 6 流面 6 流面 6 流面 1 役職配付合計 1 役職配付 2 繰延付金 3 繰定負債 3 繰定負債 1 負債		10,581 21,048 2,994 2,026 2,189 4,248 388 351	43,088 739 43,828	29.6 0.5 30.1	8,239 23,821 2,803 2,077 2,163 3,082 282 841	42,188 1,124 43,312	27.8 0.7 28.5	9,347 24,330 2,681 1,821 1,697 3,205 422 630 70	1,123 44,207	28.7 0.8 29.5
(資本の部) 資本金 資本剰余金 1 資本準備金		9,270	11,750	8.1	9,270	11,750	7.7	9,270	11,750	7.8
資本剰余金合計 利益剰余金 1 利益準備金 2 任意積立金 3 中間(当期)未処分利益 利益剰余金合計 その他有価証券評価差額金		2,619 71,695 6,473	9,270 80,788 1,334	6.4 55.5 0.9	2,619 78,195 6,485	9,270 87,300 1,833	6.1 57.5 1.2	2,619 71,695 9,782	9,270 84,097 2,056	1.7 47.8 6.5 56.0 1.4
自己株式 資本合計 負債資本合計			1,386 101,756 145,584	1.0 69.9 100.0		1,606 108,547 151,859	1.0 71.5 100.0		1,386 105,788 149,995	0.9 70.5 100.0

# 中間損益計算書

			間会計期間			間会計期間		前事業年度の 要約損益計算書		
			15年4月 15年9月			116年4月 116年9月		(目 平成 至 平成	15年4月 16年3月	1日 31日)
区分	注記 番号	金額(百	万円)	百分比 (%)	金額(百	百万円)	百分比 (%)	金額(百	万円)	百分比 (%)
売上高			89,241	100.0		91,381	100.0		182,903	100.0
売上原価			66,897	75.0		69,563	76.1		137,364	75.1
売上総利益			22,344	25.0		21,817	23.9		45,538	24.9
販売費及び一般管理費			15,759	17.6		16,212	17.8		31,427	17.2
営業利益			6,585	7.4		5,604	6.1		14,111	7.7
営業外収益	1		2,649	2.9		2,570	2.8		3,950	2.2
営業外費用	2		923	1.0		862	0.9		1,861	1.0
経常利益			8,310	9.3		7,312	8.0		16,200	8.9
特別利益			0	0.0		10	0.0		704	0.3
特別損失	3		561	0.6		167	0.2		1,126	0.6
税引前中間(当期)純利益			7,750	8.7		7,155	7.8		15,778	8.6
法人税、住民税及び事業税		3,270			2,770			5,800		
法人税等調整額		349	2,921	3.3	220	2,549	2.8	525	6,325	3.4
中間(当期)純利益			4,830	5.4		4,605	5.0		9,453	5.2
前期繰越利益			1,643			1,894			1,643	
自己株式処分差損						14				
中間配当額									1,313	
中間(当期)未処分利益			6,473			6,485			9,782	

前中間会計期間 (自 平成15年4月1日	当中間会計期間 (自 平成16年4月1日	前事業年度 (自 平成15年4月1日
至 平成15年9月30日)	至 平成16年9月30日)	至 平成16年3月31日)
1 資産の評価基準及び評価方法 (1) 有価証券	1 資産の評価基準及び評価方法	1 資産の評価基準及び評価方法
( ) 有1111	(1) 有価証券 売買目的有価証券	(1) 有価証券 売買目的有価証券
	元复日的有调益分同左	元复日的有调能分 同左
時価法(売却原価は総平均	旧生	
法により算定)	<b>洪如</b> 但左口的不停光	<b>类如但左口的不序光</b>
満期保有目的の債券 償却原価法	満期保有目的の債券 同左	満期保有目的の債券 同左
子会社株式及び関連会社株	子会社株式及び関連会社株	子会社株式及び関連会社株
式	式	式
総平均法による原価法	同左	同左
その他有価証券	その他有価証券	その他有価証券
a 時価のあるもの	a 時価のあるもの	a 時価のあるもの
中間決算日の市場価格等	同左	決算日の市場価格等に基
に基づく時価法(評価差額		づく時価法(評価差額は全
は全部資本直入法により処		部資本直入法により処理
理し、売却原価は総平均法		し、売却原価は総平均法に
により算定)		より算定)
b 時価のないのもの	b 時価のないのもの	b 時価のないのもの
総平均法による原価法	同左	同左
(2) デリバティブ	(2) デリバティブ	(2) デリバティブ
時価法	同左	同左
(3) たな卸資産	(3) たな卸資産	(3) たな卸資産
商品(サプライ)・原材料・	商品(サプライ)・原材料・	商品(サプライ)・原材料・
貯蔵品	貯蔵品	貯蔵品
先入先出法による原価法	同左	同左
商品(機器)・製品・仕掛品	商品(機器)・製品・仕掛品	商品(機器)・製品・仕掛品
個別法による原価法	同左	同左
2 固定資産の減価償却の方法	2 固定資産の減価償却の方法	2 固定資産の減価償却の方法
(1) 有形固定資産	(1) 有形固定資産	(1) 有形固定資産
法人税法に定められている定	同左	同左
率法に基づいております。		
ただし、平成10年4月1日以		
降に取得した建物(建物附属設		
備を除く)については、定額法に		
よっております。		(2) (27)
(2) 無形固定資産	(2) 無形固定資産	(2) 無形固定資産
法人税法に定められている定	同左	同左
額法に基づいております。		
なお、自社利用のソフトウェ		
アについては、社内における利		
用可能期間(主として5年)に基		
づく定額法によっております。	/2)	(2) 医细节+/ 弗巴
(3) 長期前払費用	(3) 長期前払費用	(3) 長期前払費用
定額法	同左	同左

前中間会計期間 (自 平成15年4月1日 至 平成15年9月30日)	当中間会計期間 (自 平成16年4月1日 至 平成16年9月30日)	前事業年度 (自 平成15年4月1日 至 平成16年3月31日)
3 引当金の計上基準	3 引当金の計上基準	3 引当金の計上基準
(1) 貸倒引当金	(1) 貸倒引当金	(1) 貸倒引当金
債権の貸倒れによる損失に備	同左	同左
えるため、一般債権については	132	132
貸倒実績率により、貸倒懸念債		
権等特定の債権については個別		
に回収可能性を勘案し、回収不		
能見込額を計上しております。		
(2) 賞与引当金	(2) 賞与引当金	(2) 賞与引当金
従業員に対して支給する賞与	同左	(2) 負 3 3 3 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2
の支給見込額のうち、当中間会	四五	の支給見込額のうち、当期にお
計期間の末日において負担すべ		いて負担すべき額を計上してお
き見積額を計上しております。		ります。
(3) 退職給付引当金	(3) 退職給付引当金	(3) 退職給付引当金
従業員の退職給付に備えるた	同左	従業員の退職給付に備えるた
め、当事業年度末における退職	면선	め、当事業年度末における退職
給付債務に未認識過去勤務債務		給付債務に未認識過去勤務債務
及び未認識数理計算上の差異を		及び未認識数理計算上の差異を
加減した額から年金資産の額を		加減した額から年金資産の額を
控除した見込額に基づき、当中		控除した額を計上しておりま
間会計期間の末日において発生		す。
していると認められる額を計上		っぷっ   数理計算上の差異は、その発
しております。		生時の従業員の平均残存勤務期
数理計算上の差異は、その発		間以内の一定の年数(15年)によ
生時の従業員の平均残存勤務期		る定額法により翌事業年度から
間以内の一定の年数(15年)によ		************************************
る定額法により翌年度から費用		す。
処理することとしております。		9 0
(4) 役員退職慰労引当金	(4) 役員退職慰労引当金	(4) 役員退職慰労引当金
役員の退職慰労金支給に充て	(+) 投資巡職認力可当並 同左	(4) 投資退職認力引当金
るため、内規に基づく当中間会	问在	るため、内規に基づく期末要支
計期間の末日における要支給額		給額を計上しております。
を計上しております。		MAR を引工してのうより。
4 外貨建の資産及び負債の本邦通	4 外貨建の資産及び負債の本邦通	   4 外貨建の資産及び負債の本邦通
は	4 パ貝娃の貝達及の貝債の本が過 皆への換算基準	4
外貨建金銭債権債務は中間決算	同左	外貨建金銭債権債務は決算日の
日の直物為替相場により円貨に換	四年	直物為替相場により円貨に換算
算し、換算差額は損益として処理		し、換算差額は損益として処理し
しております。		ております。
5 リース取引の処理方法	5 リース取引の処理方法	このりより。   5 リース取引の処理方法
リース物件の所有権が借主に移	同左	同左
転すると認められるもの以外のフ	问在	问在
ァイナンス・リース取引について		
は、通常の賃貸借取引に係る方法に 準じた会計処理によっております。		
6 その他中間財務諸表作成のため	6 その他中間財務諸表作成のため	   6 その他財務諸表作成のための基
の基本となる重要な事項	の基本となる重要な事項	本となる重要な事項
消費税等の会計処理	消費税等の会計処理	消費税等の会計処理
消費税等は税抜方式により処	同左	税抜方式によっております。
理し、仮受消費税等と仮払消費		
税等を相殺し、流動負債「その		
他」に含めて表示しております。		
じょにロのてなかしてのりより。		

### 追加情報

前中間会計期間	当中間会計期間	前事業年度
(自 平成15年4月1日	(自 平成16年4月1日	(自 平成15年4月1日
至 平成15年9月30日)	至 平成16年9月30日)	至 平成16年3月31日)
	実務対応報告第12号「法人事業税における外形標準課税部分の損益計算書上の表示についての実務上の取扱い」(企業会計基準委員会 平成16年2月13日)が公表されたことに伴い、当中間会計期間から同実務対応報告に基づき、法人事業税の付加価値割及び資本割130百万円を販売費及び一般管理費として処理しております。	

# 注記事項

# (中間貸借対照表関係)

前中間会計期間末 (平成15年9月30日)	当中間会計期間末 (平成16年9月30日)	前事業年度末 (平成16年3月31日)
1 有形固定資産の減価償却累計	1 有形固定資産の減価償却累計	1 有形固定資産の減価償却累計
額	額	額
63,139百万円	65,579百万円	64,690百万円
2 保証債務	2 保証債務	2 保証債務
(1) 関係会社借入金 (保証予約	(1) 関係会社借入金 (保証予約	(1) 関係会社借入金 (保証予約
及び経営指導念書の差入によ	及び経営指導念書の差入によ	及び経営指導念書の差入によ
る保証を含む)	る保証を含む)	る保証を含む)
T.F.カンパニー社	T.F.カンパニー社	T.F.カンパニー社
86 百万円	85 百万円	81 百万円
(6百万香港ドル)	(6百万香港ドル)	(6百万香港ドル)
(2) 従業員住宅	(2) 従業員住宅	(2) 従業員住宅
借入金保証 21	借入金保証 19	借入金保証 20
計 107	計 105	計 101

# (中間損益計算書関係)

(中间摄画计算首周际)								
前中間会計 (自 平成15年 至 平成15年	当中間会計期間 (自 平成16年4月1日 至 平成16年9月30日)			前事業年度 (自 平成15年4月1日 至 平成16年3月31日)				
1 営業外収益の主要項目		1	1 営業外収益の主要項目			営業外収益の主要項目		
受取利息	6百万円		受取利息	3百万円		受取利息	19 百万円	
受取配当金	1,466		受取配当金	1,327		受取配当金	1,508	
設備賃貸料	849		設備賃貸料	887		設備賃貸料	1,754	
特許料収入	251		特許料収入	236		特許料収入	426	
2 営業外費用の主要項目		2	営業外費用の主要項目		2	営業外費用の主要項目		
賃貸費用	787 百万円		賃貸費用	815 百万円		賃貸費用	1,630百万円	
3 特別損失の主要項目		3	特別損失の主要項目		3	特別損失の主要項目		
建物除却損	56 百万円		建物除却損 1百万円			建物除却損	69 百万円	
機械及び装置 除却損	46		機械及び装置 除却損	60		機械及び 装置除却損	73	
工具器具備品 除却損	31		投資有価証券 評価損	51		投資有価証券 評価損	111	
投資有価証券 評価損	1		会員権評価損	41		構造改善費用	796	
事業拠点統合費用	月 413							
4 減価償却実施額		4	減価償却実施額		4	減価償却実施額		
有形固定資産	2,118百万円		有形固定資産	2,106百万円		有形固定資産	4,457百万円	
無形固定資産	98		無形固定資産	107		無形固定資産	212	

1年内

1 年超

合計

53 百万円

89

142

前中間会計期間 (自 平成15年4月1日			当中間会計期間 (自 平成16年4月1日				前事業年度 (自 平成15年4月1日				
至 平成15年9月30日)			至 平成16年9月30日)			至 平成16年3月31日)					
			借主に移				借主に移	1 リース物件の所有権が借主に移			
	と認めら		以外のフ		と認めら		以外のフ	転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引			
	ンス・リ I ー フ 物 個		価額相当		ンス・リーフ物化		(				(
			□ 語 行 ∃  当額及び	(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び				(1) リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び			
	期末残高			中間期末残高相当額				期末残高相当額			
	取得価額	減価償却	中間期末		取得価額	減価償却	中間排沫		取得価額	減価償却	期末残高
	相当額	累計額	残高		相当額	累計額	残高		相当額	累計額	相当額
	(百万円)	相当額	相当額		(百万円)	相当額	相当額		(百万円)	相当額	(百万円)
(有形固定資	    	(百万円)	(百万円)	(有形固定資	  産)	(百万円)	(百万円)	(百万円)   (百万円)   (有形固定資産)			
機械及び		1,647	885	機械及び	2,821	1,871	950	★終末式7-7 ×			
装置 その他	2,533	·		装置	·			装置	2,737	1,908	828
	7,299	5,333	1,965	その他	7,059	5,499	1,559	その他	7,036	5,398	1,638
小計	9,832	6,981	2,850	小計	9,880	7,370	2,509	小計	9,774	7,307	2,467
無形固定資産	154	131	22	無形固定資産	156	135	21	無形固定資産	177	147	30
合計	9,987	7,113	2,873	合計	10,036	7,506	2,530	合計	9,951	7,454	2,497
		ス料中間	期末残高	(2) 未経過リース料中間期末残高				(2) 未経過リース料期末残高相当			
相当	額 年内	1 7	40 A E III	相当	額 年内	1 7	4 <i>6</i> 5 5 m	額	年内	1.6	44 5 E M
	年超	3,1	18 百万円 53		年超	2,7	15 百万円 ∩7		年超	2,7	41 百万円 30
<u>-</u> 合		4,8		合		4.4		合		4,3	_
		,	·- 払リース	(3) 当中間会計期間の支払リース			(3) 当事業年度の支払リース料等				
料等	料等			料等							
	支払リース料 1,011 百万円			支払リース料 1,005百万円			支払リース料 1,980百万円				
	減価償却費相当額 791			減価償却費相当額 655			減価償却費相当額 1,549				
	支払利息相当額 108   (4)減価償却費相当額の算定方法			支払利息相当額 89 (4)減価償却費相当額の算定方法				支払利息相当額 202 (4)減価償却費相当額の算定方法			
, ,	imigzig i形固定資		并处门仏	(4) 減価資料負担日報の昇足力法 有形固定資産			(4) パーリー (4				
			用年数と	同左			同左				
			として計	1							
			減価償却								
			を乗じた								
			費相当額 ておりま								
す		11000	(0) ) &								
無	無形固定資産			無形固定資産				無形固定資産			
	リース期間を耐用年数と			同左				同左			
			する定額								
	法によっております。 (5) 利息相当額の算定方法			   (5) 利息相当額の算定方法			   (5) 利息相当額の算定方法				
	リース料総額とリース物件の			同左			同左				
	取得価額相当額との差額を利息										
相当額とし、各期への配分方法 については、利息法によってお											
しいしま		利息法に	よってお								
	-										
			ース取引				ース取引				ース取引
	過リース <sup>年内</sup>		53 五三田		過リース <sup>医内</sup>		52 <u>2</u> 2 2 0		過リース <sup>任内</sup>		53 五上田

53 百万円

36

89

1 年内

1 年超

合計

53 百万円

62

115

1年内

1年超

合計

#### (3)有価証券

前中間会計期間、当中間会計期間及び前事業年度のいずれにおいても子会社株式及び関連会社株式で時価のあるものはありません。

# (4)1株当たり情報

前中間会計期間 (自 平成15年4月1日 至 平成15年9月30日)	当中間会計期間 (自 平成16年4月1日 至 平成16年9月30日)	前事業年度 (自 平成15年 4 月 1 日 至 平成16年 3 月31日)		
1 株当たり純資産額 890円78銭	1 株当たり純資産額 951円50銭	1 株当たり純資産額 925円42銭		
1株当たり中間純利益 42円25銭	1株当たり中間純利益 40円34銭	1株当たり当期純利益 82円07銭		
	潜 在 株 式 調 整 後 40円34銭 1株当たり中間純利益			
なお、潜在株式調整後1株当たり		なお、潜在株式調整後1株当たり		
中間純利益は、役員及び従業員に付		当期純利益は、役員及び従業員に付		
与したストックオプション及び新株		与したストックオプション及び新株		
予約権の権利行使価格が当中間会計		予約権の権利行使価格が当事業年度		
期間の期中平均株価を上回ってお		の期中平均株価を上回っており、希		
り、希薄化が生じないため、その記		薄化が生じないため、その記載を省		
載を省略しております。		略しております。		

# (注) 1株当たり中間(当期)純利益及び潜在株式調整後1株当たり中間(当期)純利益の算定上の基礎

	前中間会計期間当中間会計期間		前連結会計年度			
	(自 平成15年4月1日	(自 平成16年4月1日	(自 平成15年4月1日			
	至 平成15年9月30日)	至 平成16年9月30日)	至 平成16年3月31日)			
中間(当期)純利益 (百万円)	4,830	4,605	9,453			
普通株主に帰属しない金額の内訳 (百万円)						
利益処分による役員賞与金			75			
普通株式に帰属しない金額 (百万円)			75			
普通株式に係る中間(当期)純利益 (百万円)	4,830	4,605	9,378			
期中平均株式数 (千株)	114,315	114,151	114,273			
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後	1 ストックオプションに	1 ストックオプションに	1 ストックオプションに			
1株当たり中間(当期)純利益の算定に含めな	係る新株予約権	係る新株予約権	係る新株予約権			
かった潜在株式の概要	(新株予約権の数3,080	(新株予約権の数3,330	(新株予約権の数3,080			
	個、株式数308千株)	個、株式数333千株)	個、株式数308千株)			
	2 旧商法第210条ノ2の	2 旧商法第210条ノ2の	2 旧商法第210条ノ2の			
	規定に基づき取得したス	規定に基づき取得したス	規定に基づき取得したス			
	トックオプション目的に	トックオプション目的に	トックオプション目的に			
	係る自己株式(294千株)	係る自己株式(294千株)	係る自己株式(294千株)			

### (5)重要な後発事象

該当事項はありません。